

園からの便り  
ひぐらし



小窓の向こうに

満開の桜のもと、「誠美保育園」改め、「幼保連携型認定こども園せいび」として迎える、初めての春。  
昨年度から、「4月からも、何も変わらない毎日」とお伝えしてきてはいたのだが、蓋を開けてみると、行政とのやり取りを中心とした事務手続きについてだけは、「何かと変わっている毎日」に、少し戸惑いを感じているところ。

そして、こども園になりながら、当園のドメイン(アドレス)名が、HOIKUEN・JP(ホイクエン ドット ジェイピー)というのも、さすがに紛らわしいかなど、

KODOMO・TOKYO  
(「ドモ ドット トーキョー」)

へと移行する予定なのであるが、この少し大きなドメイン名も、その心意気に免じてお許しいただきたい(当分の間、

メールは、どちらのドメイン名でも大丈夫。)。また同時に、ホームページも目下リニューアル中なので、しばしお待ちを。

そして先日、まだ一つ、忘れていたことがあることに気づいたのだった！ そう、それは駐車場入口の脇に立つ、ガラスブロックの「せいび保育園」のサイン。 とうの昔にこども園移行を済ませていた先輩園から、制度上の手続きや体制作りに追われるあまり、看板にまで気が回らなかつたという話を、以前から聞いていたので、同じ轍は踏むまいと決心していたはずなのに…。

実はこのガラスブロック、もう10年以



上も前に、多摩美術大学とタイアップをして園庭改修を実施した際、学生たちが制作してくれたものののだ。

サインの傍で腕を組み、さて、どうしたものかとこれを眺めていた時、「せいび」とひらがなで制作されていたことに、改めて気づいた私。ならば「保育」を取って、「せいび」と「園」を並び替えればなんとかなるか、この偶然にほくそ笑むも、「こども園せいび」は7文字であることに気づき…どう指を折っても、あと1枠が足りない。

とりあえず、そこは後から考えるとして、このひらがなを生かし、「文字だけでも並べ変えてみよう」と、そう軽く考えて解体を始めたのが運の尽き。

思いの外、ガラスブロック一つ一つのサイズがバラバラだったため、別の枠にはうまく収まらず、かと言ってもう後戻りするのにも悔しくて。ついに、木枠をノミで削りながら押し込んでいくという、大仕事に発展していったのだった。

そして、数時間の後に完成したのが、あのトップにある写真。何度眺めてみて

も、苦勞の割に、そこに、あまり達成感を感じないのが…少し悲しい。

それにしても、「こども」の3文字はどうしたものか。観光地にある記念写真の看板よろしく、残されたこの2つの小窓から、子どもたちが顔を覗かせたら、まさに「こども」の完成…なんて…そんなわけには、いきそうにない。

さあ、兎にも角にも、この窓の向こう側で、それぞれの物語が始まっていく。

新入園児も、進級園児も、

ようこそ、こども園せいびへ

園長 折井誠司



「ひぐらし」に寄せて

「暮らし」という言葉の響きには、そこに集う人たちの日々の苦楽や、それに伴う努力や知力、そして、やがてそこに醸成される慣習や文化といったものを感じる。

今に夢中な「その日暮らし」

いつかに思いを馳せる「あの日暮らし」

今日こそはと挑む「この日暮らし」

子どもも、大人も…それぞれの毎日の営みが積み重なって、このもう一つのおウチの中に、私たちがらしい文化を漂わせていきたい…本誌タイトル、「ひぐらし」にはそんな思いを込めている。

今年度も毎月、園長の勝手な思いを、つらつらと書き連ねていくので、どうかお付き合いをいただければと。

- 編集 幼保連携型認定こども園せいび
  - 発行人 折井 誠司
  - 印刷所 幼保連携型認定こども園せいび
  - 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会
- 〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-675-1155  
ファックス 042-677-5643  
E-mail seibi@kodomonokyō.jp  
http://kodomonokyō.jp